リード芦屋新聞

発行元
リードあしや

記事
寺本空未

写真
岩城眞優

人と人をつなげる

こども家庭・保健センター

芦屋市こども福祉部こども家庭室こども家庭・保健センター（愛称・あしふく）の廣瀬香センター長に、このセンターの活動についてインタビューした。

◇　◇

ここでは、赤ちゃんから高齢者まで、市民の健康づくりを推進するため、いろいろな保健・福祉サービスを行なっています。保健だけでなく、児童福祉を統合させたグループとして、多くの人に向けた活動を行いたいと思っています。

国の政策では、来年度から「こども家庭センター」の活動を全国的に進めようとしています。しかし、芦屋市は今年から先行して設置されました。このセンターは活動を始めたばかりで、まだ骨格が決まっていません。だからこそ、いろいろな新しい企画に取り組んでいきたいと思っています。

日本は、こどもが意思表示することが難しい環境が多く、大人の意見ばかり注目されてしまうことが多いです。そのため、こどもたちの意思を尊重しながら活動していきたいと思っています。

こどもの虐待は、親が虐待をしたいと思ってやっているケースは、とても少ないのです。こどもをとてもかわいいと思っていても、ストレスがたまるなどして、虐待をしてしまうのが実情です。保護者に寄り添った活動を行っていこうと思っています。

ここでは、乳幼児と親が関わる少人数のイベントを多く行っています。少人数で行うことで、親が相談しやすかったり、職員が話しかけやすかったり、親同士をつなげられるメリットがあります。そして、目が届きやすいので親御さんもスタッフも安心できます。

継続的に参加してくれる人が多いのは、赤ちゃんの足にインクをつけ、紙につける足型アートのイベントです。このイベントでは季節に合わせて、いろいろなイラストのアートを製作します。紙におした足型に、目やひげ、しっぽを付けて、毎回楽しんでいただいています。

家でするとお面倒ですが、この場では簡単に作れるので、大切な思い出になったらいいと思っています。

親子で楽しめる内容に

多彩なイベントを開催

核家族が多くなり、こどもとの遊び方がわからないという悩みをよく聞きます。そのため、イベントの内容を、できるだけ家でもできることにして、家でも親子でやってほしいと思っています。

こどもの興味を引くために、多くのイベントを開催しています。いろいろなイベントをすることで、一つでもこどもの興味があるイベントを見つけてもらいたいと思っています。

「あしもん」というキャラクターが児童虐待防止活動を行っています。多くの人に児童虐待防止を知ってもらうためにきっかけになるようにしたいと思っています。

市民の「交流の場」

中高生にも参加促す

このセンターは、全世代が使える場所となっていますが、中高生対象のイベントは多くはありません。コロナ前のイベントでは、ボランティアとして地域の中高生に手伝ってもらい、とても盛り上がっていました。高校生のボランティアなどの活動は徐々に増えてきていますが、まだコロナ前には戻っていません。

小学校の時はキッズスクエアなどがあり、学年を超えての交流も多いですが、中学生は部活しかなくなってしまい、学校外の人とふれあう時間がなくなってしまいます。また中学校では私立と公立でわかれ、学校の中でしか交流することがなくなります。高校生は、市外の学校に行く人が多く、夜、芦屋に帰ってくるだけになってしまうのが現状です。これからは、さまざまな人たちが交流できる場を増やしていきたいと思っています。

今後は、この場を中高生に平日だけでなく日曜日に使ってもらいたいと思っています。そして、このセンターが市民のハブのような存在となるようにしていきたいと思っています。

（写真は、記者とともに笑顔の廣瀬さん＝中央）